

【米沢市立病院】 米沢市相生町6-36

■訪問日：平成18年6月1日（木）13:00～15:00

■対面者：芦川紘一院長

■訪問者：(山形大学) 清水博教授、船田孝夫助教授  
(山形県健康福祉企画課) 佐藤泰幸企画主査、國井丈寿主事

◇救急告知病院、人間ドック施設

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	425床	医 療 ス タ フ	常勤医師	54人	訪問看護ステーション			
一日平均外来患者数 一般	954.5人		非常勤医師(常勤換算で)	3.6人	訪問リハビリステーション			
病床利用率(※平成17年度)一般	90.1%		標準医師数%	%	地域包括支援センター			
平均在院日数(※)	13.9日		産科医(再掲:常勤換算で)	3人	介護療養型医療施設			
紹介率(※)	51.2%		小児科医(再掲:常勤換算で)	4人	介護老人保健施設			
逆紹介率(※)	41.5%		麻酔科医(再掲:常勤換算で)	1人	介護老人福祉施設			
救急患者数(平日) (※)	人/年		歯科医師	人	認知症高齢者グループホーム			
救急患者数(休日) (※)	人/年		薬剤師	15人	特定施設入居者生活施設			
救急患者数(救急車搬送) (※)	人/年		看護師	253人	軽費老人ホーム(ケアハウス)			
手術件数(全麻) (※)	188件/年		助産師(兼任を含む)	15人	有料老人ホーム			
手術件数(局麻) (※)	82件/年		診療放射線技師	12.0人	小規模多機能型施設			
分娩数(※) (うち帝王切開)	549件/年(102)		臨床検査技師	20.9人	高齢者向け優良賃貸住宅			
収支(平成17年度決算)	黒字 (赤字)		理学療法士:PT	3.0人	看護学校			
△3.16%改定の影響	あり・なし		作業療法士:OT	1.0人	リハビリテーション病院			
△3.16%の影響ありの場合	%		言語聴覚士:ST	人	診療所			
クリティカルパスの使用	あり・なし		臨床工学技士	4.0人	○ 保育所			
医療ソーシャルワーカー:MSW	2人		診療情報管理士	人	その他( )			
事務職	62人	栄養士( 7.0)人、このうち再掲 管理栄養士 ( 4.0)人						
地域連携室(再掲)		看護師		人				
医師(兼任を含む)	1人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW		人				
事務職(兼任を含む)	5人	その他( )		人				
主な設備	電子カルテ	導入済・ <u>検討中</u> ・予定なし	オーダーリング	導入済・ <u>検討中</u> ・予定なし				
CT	台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 台)、その他( 台)						
MRI	1台	内訳: 1.5T以上( 台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)						
リニアック	台	透析機器	台	透析実患者数 人				
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A, B, C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	1人	人	1人	人	耳鼻咽喉科医	1人	人	人
循環器呼吸器内科医	1人	人	人	1人	眼科医	人	人	人
消化器内科医	2人	人	2人	人	産婦人科医	1人	人	1人
小児科医	1人	人	人	1人	麻酔科医	1人	人	人
外科医(一般)	1人	人	人	1人	放射線科医	1人	人	人
循環器呼吸器外科医	1人	人	1人	人	その他( 科医)	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	人	人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル			
整形外科医	人	人	人	人	( )	人	人	人



<課題>

- 1 米沢・置賜地域の基幹病院としての医師の確保
- 2 米沢・置賜地域の基幹病院としての施設整備・病院の増改築（新築）
- 3 ITを利用した地域中核病院としての基盤整備
- 4 精神科医療の再構築

<Flag>

- 1 米沢・置賜地域の急性期医療の中核病院
- 2 CATVによる地域連携

<9つの主要事業>

- ① がん対策  
→肺、消化器、血液、耳鼻、泌尿器は基本的に対応可能  
放射線療法は公立置賜総合病院
- ② 脳卒中対策  
→急性期医療、急性期リハビリに対応可能 三友堂リハビリセンターと連携パス
- ③ 急性心筋梗塞  
→手術は福島医大からの応援で対応
- ④ 糖尿病対策  
→糖尿病専門医1人
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策（小児科医4人）  
→小児科医はオンコール  
→休日は休日診療所
- ⑥ 周産期医療  
→産婦人科医3人で対応
- ⑦ 救急医療  
→救急輪番制で対応
- ⑧ 災害医療対策  
→米沢市の拠点として対応
- ⑨ へき地医療対策  
→移動診療所として3カ所を診療支援

## ＜現状と課題＞

- ・ 公立置賜総合病院と米沢市立病院は県南の中核的基幹病院として、地域医療の中心的役割を担っている。
- ・ C A T V が発達しており、それを介して医師会と連携するなど関係も良好である。連携システムでは、予約オンラインで 24 時間予約が可能となっている。また、4 つの病院と開業医の医師とが繋がっている。
- ・ ここでは、主に救急医療を受け持っている。
- ・ 開業医はほとんどが登録医でその数は 100 人以上（医・歯含む。ほぼ半々）にのぼる。
- ・ 地域医療支援病院の取得を目指している。
- ・ 各科 2 枠の紹介枠を有し、その枠には自由に予約が可能である。
- ・ C T（マルチスライス）及び M R I（1.5 T）を保有している。また、10%以上が検査紹介である。
- ・ 逆紹介率は 40%位。
- ・ ここでは 2.5 次医療を受け持つ。ここで対応できない場合は、公立置賜総合病院、山形大、県立中央病院を紹介する。ただし、その数は年間 1 桁にすぎない。他に、N I C U などは山形済生病院に紹介することもある。

## ＜9つの事業について＞

## ○がん

- ・ ほとんどここで完結する。放射線治療は公立置賜総合病院へ送る。手術、化学療法はここで行う。
- ・ リニアックを自前で持つ考えはない。

## ○脳卒中（脳外科医 2 名、神経内科医 1 名）

- ・ 全部（クモ膜下含む）の症例に対応できる。
- ・ リハは、三友堂リハビリセンターと連携パス（1W2-2、2W2-2）を用いて連携しており、スムーズにしている。在院日数は短い。（14 日）
- ・ P T 3 名、O T 0 名（精神科に O T 1 名）、S T は 1 名いたが、現在欠員のため、募集中である。
- ・ 今回の改定への対応は様子見の状態である。運動器リハが主で、次いで脳卒中リハ。回復期は三友堂病院へお願いする。

## ○急性心筋梗塞（心臓外科 1 人、若手）

- ・ 手術は福島からきてもらっている。
- ・ 専門医 3 人
- ・ 手術等で急を要する場合は、県立中央病院、山形大、福島医大に送ることが多い。福島から手伝いも来てくれる。
- ・ 循環器医は 3 人（登録 5 人）おり、カテーテル検査、P T C A 等は内科で行っている。

## ○糖尿病（専門医 1 名）

- ・ 専門医 1 人で、なかなか手が回らない。
- ・ 夜間の糖尿病教室を 1 回/月、看護師、栄養士、薬剤師を交えて行っている。
- ・ 眼科、合併症も含めてここで対応できる。眼科医 2 名、泌尿器科医 2 名
- ・ 透析 13 台。腹膜透析が増えている。地域としては不足しているが、これ以上はスペース的に無理であり、医師の増員も必要となる。また、開業医 2 人が透析を実施

○小児医療（4人）

- ・ このほかに市内では舟山病院に1人、開業医4人の小児科医がいる。
- ・ 夜間の小児患者はほとんどがここにくる。日曜は休日診療所があり（山形大の応援）、多少患者が分散する。
- ・ First call は一般当直医が対応し、小児科医はオンコールにより対応する。当直2人、ICU1人の医師体制をとっている。

○周産期医療

- ・ NICUの専任医師はいない。新生児治療用ベッドはあるが、症例によっては、山形済生病院か山形大病院へ送る。
- ・ この産婦人科3人、開業医2人（島貫医院、新野医院）が市内の産婦人科体制
- ・ 人工授精もやっている。全国平均並みの着床率を有する。
- ・ 分娩数は年間500例。公立高島病院の産科廃止によりこちらに来る患者が多くなった。

○災害医療

- ・ 当院で対応する。

○へき地医療

- ・ ここからへき地診療所などへ医師の応援は出していない。
- ・ 診療所への移動診療として、3ヶ所に行っている。（患者数は、大平地区2~3人、田沢地区10人以上、綱木地区2~3人）。昔のへき地診療の名残があり、定期の診察と処方を行っている。

○医療連携

- ・ うまくいっていると思う。

○遠隔医療

- ・ 特にやっていない
- ・ 画像はフィルムでやりとりしている。

○電子カルテ

- ・ 現在計画中であり、ベンダーが決定した。今年度中にオーダーリングが稼働し、来年度には電子カルテが稼働する。

○へき地医療支援機構

- ・ 利用していない

○地方公営企業法

- ・ 現在一部適用だが、助役等を含め地方独立行政法人化などについて検討中である。
- ・ 院長に人事権と予算権はない。

○診療報酬改定（△3.16%）の影響

- ・ 2億円減の見通しだが、多少それよりよくなるかもしれない。
- ・ 医業収益は65億円で、市からの繰入額は6億円（不採算）+4億円（その他）、計10億円

○医師等医療従事者の不足

- ・ 5～6名の医師がほしい。内訳は内科、糖尿病、内分泌が各1名。耳鼻咽喉科1名、皮膚科1名、放射線科1名、消化器内科2名。
- ・ 放射線科医2名→1名減。
- ・ 麻酔科医2名で全身麻酔1,000例を行っており、不足している。
- ・ 看護師は、毎年約20人の入替があり、また准看の退職もあったので、10:1ギリギリの状態。満床になると厳しい。
- ・ リハビリスタッフも少ない。

○平均在院日数

- ・ 現在14日。脳卒中の患者のスムーズな退院が、平均在院日数の短縮に結びついている。

○精神科医療

- ・ 70人前後の患者を医師4人で診ている。6月末に1人退職（大学病院へ）の予定
- ・ 精神科救急もやっている。総合失調症もいるが、うつが多い。閉鎖病室を4部屋有する。
- ・ 財政のことを考えると精神科は効率悪い。15:1の体制で、1日当たり単価は一般病棟の1/3に過ぎず、病院経営を圧迫している。
- ・ 佐藤病院（200床）に、当院の精神科医療を委ねられないかと考えている。ここの70床は中途半端である。
- ・ 単科入院患者とともに、合併症患者への対応が不可欠である。40床くらいが適当と思う。これは、地域の精神医療のありかたに関係してくる。一日120人の精神患者がきている。

○DPC

- ・ 今すぐは考えていない。H20年度に間に合えばいい。

○医療機能評価

- ・ 更新済

○地域医療室

- ・ 室長一副院長、医師2人、医事課1人、専門職1人、スタッフ3人。MSW2人は医療相談室に所属
- ・ 老人保健施設、特別養護老人ホームに空きがないので退院先に苦労している。

○今後について

- ・ 米沢市立病院が地域の核としてしっかりしていなければならないと考えている。

【三友堂病院】 米沢市中央6-1-219

■訪問日：平成18年6月1日（木）16：00～19：20

■対面者：仁科盛之院長、田林企画部長、同リハビリセンター川上千之院長、同加藤直一事務長

■訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授

（山形県健康福祉企画課）佐藤泰幸企画主査、國井丈寿主事

◇救急告知病院、人間ドック施設

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印					
病床数(現在)	190床	医 療 ス タ フ	常勤医師	16人	○ 訪問看護ステーション				
一日平均外来患者数	420人		非常勤医師(常勤換算で)	7.0人	訪問リハビリステーション				
病床利用率(※平成17年度)	84.7%		標準医師数%	110%	地域包括支援センター				
平均在院日数(※)	19.1日		産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設				
紹介率(※)	38.6%		小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設				
逆紹介率(※)	13.9%		麻酔科医(再掲:常勤換算で)	0.5人	介護老人福祉施設				
救急患者数(平日)(※)	2,066人/年		歯科医師	人	認知症高齢者グループホーム				
救急患者数(休日)(※)	3,099人/年		薬剤師	8人	特定施設入居者生活施設				
救急患者数(救急車搬送)(※)	905人/年		看護師	123人	軽費老人ホーム(ケアハウス)				
手術件数(全麻)(※)	269件/年		助産師(兼任を含む)	人	有料老人ホーム				
手術件数(局麻)(※)	884件/年		診療放射線技師	6.0人	小規模多機能型施設				
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年( )		臨床検査技師	12.0人	高齢者向け優良賃貸住宅				
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字		理学療法士:PT	5.0人	○ 看護学校				
△3.16%改定の影響	あり・なし		作業療法士:OT	4.0人	○ リハビリテーション病院				
△3.16%の影響ありの場合	△1.6%	言語聴覚士:ST	1.0人	診療所					
クリティカルパスの使用	あり・なし	臨床工学技士	4.0人	○ 保育所					
医療ソーシャルワーカー:MSW	4.0人	診療情報管理士	1人	その他( )					
事務職	41.0人	栄養士( 6.0)人、このうち再掲 管理栄養士 ( 5.0)人							
地域連携室(再掲)		看護師		1人					
医師(兼任を含む)	1人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW		4人					
事務職(兼任を含む)	1人	その他( )		人					
主な設備	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダーリング	導入済・検討中・予定なし					
CT	1台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 台)、その他( 台)							
MRI	1台	内訳: 1.5T以上( 1台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)							
リニアック	台	透析機器	20台	透析実患者数 70人					
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A, B, C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要									
	必要人数計	A	B	C		必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	2人	2人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人	人
循環器呼吸器内科医	3人	3人	人	人	眼科医	1人	人	1人	人
消化器内科医	1人	1人	人	人	産婦人科医	人	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	1人	1人	人	人
外科医(一般)	1人	人	1人	人	放射線科医	1人	1人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他(病理科医)	1人	1人	人	人
消化器外科医	1人	1人	人	人	看護師	30人	30人	人	人
脳神経外科医	1人	人	1人	人	コメディカル				
整形外科医	1人	人	1人	人	( )	人	人	人	人



<課題>

- 1 医師確保
- 2 地域の救急輪番制の見直し

<Flag>

- 1 包括医療（急性期から在宅医療まで）
- 2 リハビリテーション
- 3 リハビリテーションスタッフ・看護師の教育・労働環境の充実  
（リハビリセンター、附属看護学校、保育所等）
- 4 透析医療

<9つの主要事業>

- ① がん対策  
→消化器を中心に対応可能
- ② 脳卒中对策  
→回復期リハビリに対応可能
- ③ 急性心筋梗塞  
→外科手術以外に対応可能
- ④ 糖尿病対策  
→糖尿病専門医で対応可能
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策  
→対応できない。
- ⑥ 周産期医療  
→対応できない。
- ⑦ 救急医療  
→置賜地域の殆どの救急患者は、公立置賜総合病院又は米沢市立病院で対応
- ⑧ 災害医療対策  
→医師会と米沢市が連携
- ⑨ へき地医療対策  
→対応できない。

## ＜現状と課題＞

- ・ 中津川、綱木、板谷、大沢の各地区にもほとんどの道路が整備された。
- ・ 置賜医療協議会が設立され、アクセスもよくなったので昔のへき地医療はなじまない。
- ・ 住民は高いレベルの医療を望んでいる。へき地医療については、中津川診療所のことを調べればわかるはずだ。公立置賜総合病院に何人通っているか？中津川、綱木など山奥からも患者が来ている。ただし、冬場の交通アクセスは大変だ。
- ・ 基幹道路は除雪されているので理想をいってもきりが無い。
- ・ 自治体病院の統廃合も仕方がない。巡回診療、在宅医療には補助金、経済的バックアップが必要であり、委託の方が効率的だ。
- ・ 自治体病院の統廃合、地方財政の逼迫などの厳しい状況において、繰入金があっても赤字の病院については、「病院長は一体何をやっている」と言いたい。
- ・ 自治体病院は、住民はないよりあったほうが良いと思うだろう。しかし、住民は財政負担については責任がない。
- ・ 中津川診療所では、医師がころころ変わるので、同じ医師から診てほしいとの要望がある。一方で、30分かけても大きい病院で診てもらいたいという住民もいる。病院なら24時間対応だから安心という考えもある。
- ・ 今は、へき地診療所はいらないと思う。流れはやはり集約化の方向だろう。巡回診療による在宅医療は、開業医の先生がやっている。これらの診療活動に対して、公的助成をするべきだと思う。住民へ（診療所の必要性について）アンケート調査を行うと、当然「ないよりあったほうが良い」との回答になるはず。

## ＜9つの事業について＞

## ○がん

- ・ 消化器を重点的に行っている。
- ・ 消化器内科と呼吸器内科は非常勤（手術は公立置賜病院）。外科3人（乳房専門医1人）→消化器に重点。
- ・ 生存率のデータを公表している。
- ・ 呼吸器は公立置賜総合病院へ送る。山形大から非常勤で来てもらっている。
- ・ 緩和医療を提供している。ここでの患者実態調査でニーズが高いことがわかった。
- ・ 将来的には呼吸器外科もやりたい。問題は優秀な医師がいるかどうか。
- ・ 外科医3人（以前は4人）。1人は乳房専門医
- ・ 麻酔科医は山形大から来てもらっている。
- ・ 消化器初期がんは早期発見により、外科的治療は少なくなってきた。
- ・ 胆のう、胆石にも対応できる。
- ・ すい臓がん手術もここでできるが、胆管がんだけは大学へ送る。
- ・ 緩和ケアは、外科医のKW医師が担当しており、「在宅まで面倒みよう」という方針でやっている。また、KT先生の指導で「痛み外来」も行っている。心のケア（カウンセラーはいない）もKT先生が対応している。
- ・ 消化器内科（二内から）は、3回/週山形大から応援を得ている。
- ・ 血液は、公立置賜総合病院に送る。
- ・ 外来専門の化学療法専門棟を作った。
- ・ 内科医は2人。循環器科は4回/週山形大から来てもらっている。また、仙台厚生病院から2回/週心エコー、造影などで来てもらっている。

## ○糖尿病

- ・ 山形大三内からの応援と院長、専門看護師、管理栄養士で対応している。
- ・ 透析患者は70～80人で、2/3が糖尿病である。



- ・白内障、硝子体手術はここで対応できる。

○周産期医療

- ・対応していない。

○救急医療

- ・輪番制をとっているが、それに関係なくここに来院する。

○災害医療

- ・これに関連する医師会、県の委員になっている。
- ・医師会と米沢市とが連携

○へき地医療

- ・対応していない。

.....  
<その他>

○医師の配置状況

- ・泌尿器 1 人、脳外 2 人（脳卒中が主）脳腫瘍は山形大に送る。整形 3 人、呼吸器内科 1 人、一般内科 1 人、眼科 1 人、糖尿病・肝臓病内科 1 人（院長）。内科は全 5 人。小児科医はいない。全医師数は 15 人。（かつては 25 人いた）
- ・標準医師数は 100%充足している。ICU・緩和ケアをクリアするために配置したこともある。

○連携について

- ・リハビリは系列のリハビリセンターへ送る。
- ・地域連携パスは、米沢市立病院と始めるところ。
- ・特に登録医制度はとっていない。
- ・紹介率は 39%、逆紹介率は 13.9%以上。患者を返してもここに戻ってくる。内科・泌尿器科・整形外科・眼科は病院のほうが楽だと思う。

○電子カルテ

- ・2年前から導入し、少しずつ進化しているがペーパーレスにはなっていない。
- ・情報はCD-ROMでやりとりしており、ネットワークではつないでいない。

○地域連携室

- ・1人（事務職）を配置している。2年前に患者ニーズ調査を実施し、二次医療圏を範囲にICD分類ごとの患者を分析した。

○病理

- ・山形大（Y医師）にお願いしている。

○病院の法人形態

- ・民法第 34 条の財団法人となっている。
- ・高等看護学校があり、1 学年 40 人で、社会人入学も受け入れている。

## ○在宅との連携

- ・ 訪問看護ステーション：7名（PT1名、看護師6名）
- ・ リハビリセンター：PT 14名、OT14名、ST5名
- ・ 訪問リハ、スタッフ1人で40名の利用者がいる。
- ・ リハビリの専門医1名、脳外2名、内科1名
- ・ 米沢市立病院、公立置賜病院からの紹介が多い。
- ・ 在宅復帰率は70%で集中リハによる効果によるものと考えている。
- ・ 地域連携室でサポートしている。
- ・ 在宅療養支援診療所は「絵に描いたモチ」としか思えない。

## ○その他

- ・ 平均在院日数は18～19日。病床利用率は85%
- ・ 地域ごとの所得格差について、最上、置賜は低い方なので共稼ぎが多い。
- ・ 老人保健施設、特別養護老人ホームが増えた。グループホームができて大分よくなった。
- ・ 在宅介護支援センター：人員配置は、介護士2名、ソーシャルワーカー（SW）2名、計4名にケアマネージャー3人。24時間対応の窓口を設け、相談受付のソーシャルワーカー（SW）が担当している。
- ・ 検診については、ホテルと宿泊契約をしており、約3,500人（人間ドック）の利用者がある。婦人科については、山形大の非常勤医師に対応してもらっている。

## ○診療報酬改定（△3.16%）の影響

- ・ 約6千万円の減収見込み。
- ・ リハビリセンターは、40億円の収益に対して、4～5千万円の減の見込み。

## ○病床数について

- ・ 今は足りているが今後特化していくので200床前後あればいい。
- ・ 三友堂病院（本院）では急性期、リハビリセンターでは慢性期（リハ特化にする）。

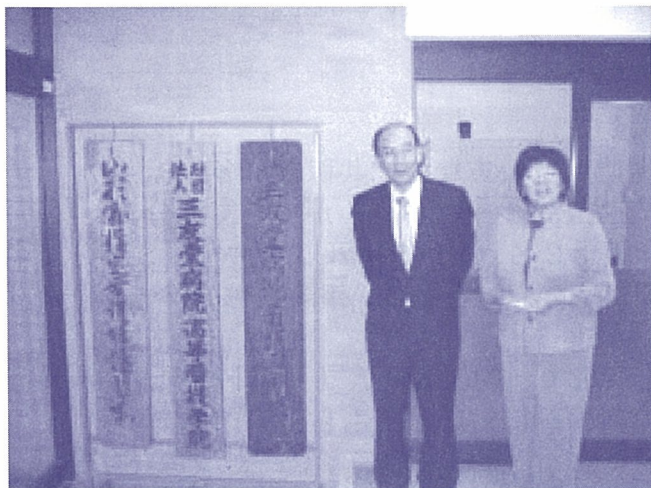
## ○院内施設巡回

## ■本院

- ・ 2～5階 病棟（44～50床） 3階外科（4～5人部屋）
- ・ 在宅60%
- ・ 緩和ケア病棟・・・昨年5月から新設、個室（4床室1つ）
- ・ リハステーション（急性期）は2階
- ・ 透析・・・20床 月・水・金、夜間も
- ・ 薬局・・・服薬指導、抗がん剤の調合など、外来は100%院外
- ・ 希望する医師数・・・内科2,3人、麻酔科、放射線科
- ・ 地域医療連携室・・・ここでは画像は見られない→来週からモニター診断
- ・ 相談室・・・ケースワーカー4人→ほぼ電話相談、在宅サービスの手配等。臨床心理士はいない。
- ・ CT（マルチ）（1日20～25件）、MRI（1.5T）あり・・・MRIだけの紹介もある。
- ・ 電子カルテはアピウス（千葉県亀田総合病院のものをウェブ型にしたもの）
- ・ 保育所（職員のみ、13名）・・・24時間、保育士5人
- ・ ICU3人
- ・ 手術室4室 年間1,000件くらい
- ・ 中央用具倉庫・・・SPD → 委託（月300万）
- ・ 栄養士2人（パート1人）、管理栄養士5人、調理師18人、残飯は業者で処理

- ・ 結石破碎室あり（水曜）
- ・ 検体検査・・・すべて内部で

【附属看護学校】 米沢市中央 7-5-3-1



- ・ 3 学年 今年 41 人入学→12～16 人が三友堂病院に残る。
- ・ 倍率は 3 倍強（推薦、社会人多い）
- ・ 置賜の人が半数
- ・ 教室は 3 つ
- ・ 教員は 9 人、事務 3 人体制→足りない。

【三友堂リハビリセンター】 米沢市成島町 3-2-90

院長：川上 千之 氏

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印					
病床数(現在)	120床	医 療 ス タ フ	常勤医師	4人	訪問看護ステーション				
一日平均外来患者数	人		非常勤医師(常勤換算で)	1.3人	訪問リハビリステーション				
病床利用率(※平成17年度)	%		標準医師数%	%	地域包括支援センター				
平均在院日数(※)	日		産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設				
紹介率(※)	%		小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設				
逆紹介率(※)	%		麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設				
救急患者数(平日)(※)	人/年		歯科医師	0人	認知症高齢者グループホーム				
救急患者数(休日)(※)	人/年		薬剤師	3人	特定施設入居者生活施設				
救急患者数(救急車搬送)(※)	人/年		看護師	15人	軽費老人ホーム(ケアハウス)				
手術件数(全麻)(※)	件/年		助産師(兼任を含む)	0人	有料老人ホーム				
手術件数(局麻)(※)	件/年		診療放射線技師	0.1人	小規模多機能型施設				
分娩数(※)	件/年		臨床検査技師	0.1人	高齢者向け優良賃貸住宅				
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字		理学療法士:PT	9.0人	看護学校				
△3.16%改定の影響	あり・なし		作業療法士:OT	13.0人	リハビリテーション病院				
△3.16%の影響ありの場合	%		言語聴覚士:ST	4.0人	診療所				
クリティカルパスの使用	あり・なし		臨床工学技士	0人	保育所				
医療ソーシャルワーカー:MSW	0人		診療情報管理士	人	その他( )				
事務職	8.0人		栄養士( 4.0)人、このうち再掲 管理栄養士 ( 2.0)人						
地域連携室(再掲)			看護師		人				
医師(兼任を含む)		人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW		人				
事務職(兼任を含む)		人	その他( )		人				
主な設備	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし		オーダリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	0台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 台)、その他( 台)							
MRI	0台	内訳: 1.5T以上( 台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)							
リニアック	0台	透析機器	台	透析実患者数	人				
<b>重要度別必要医師数及び医療スタッフ数</b> A, B, C 欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要									
	必要人数計	A	B	C		必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	人	人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	人	人	人	人
消化器内科医	人	人	人	人	産婦人科医	人	人	人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	人	人	人	人
外科医(一般)	人	人	人	人	放射線科医	人	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他( 科医)	人	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	人	人	人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル				
整形外科医	人	人	人	人	( )	人	人	人	人

## ■ 施設訪問



- ・ 平成9年から運営
- ・ 療養型（脳卒中後遺症 3/4）、介護型→平成12年から回復期
- ・ 看護師15人、PT9人（配属2人）、OT14人（配属1人）、ST4人
- ・ 平均在院日数90～100日
- ・ 約10床に1人PT、OT配属
- ・ 入院者数50人弱
- ・ 食堂兼デイルーム・・・食事はベッドで食べない。
- ・ ADL訓練部屋は無い
- ・ 水治療については部屋はあるがやっていない→風呂に入る練習に使う。
- ・ 浴室は毎週入れ替えして細菌検査
- ・ メンタルケアはやっていない。
- ・ 嚥下障害の患者もいる。
- ・ 外来もあり→退院したら紹介元へ帰す。

< 在宅看護支援センター >

- ・ 3人：看護支援専門員（ケアマネージャー、1人はソーシャルワーカー）
- ・ 相談は1日20件くらい

< 訪問看護ステーション >

- ・ 7人（OT1人）

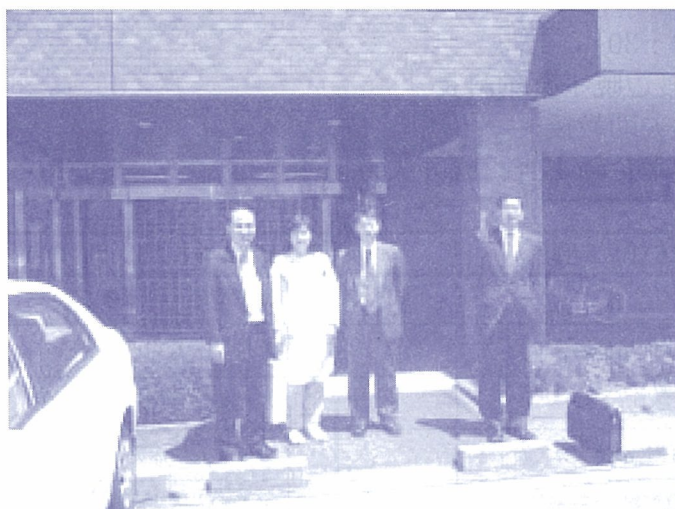
利用者は80人前後・・・町の病院の依頼多い。  
訪問リハもある。

## 【医療法人 舟山病院】 米沢市駅前2-4-8

- 訪問日：平成18年6月1日（10：40～12：30）
- 対面者：舟山尚院長、加藤洋一事務長、渡辺暁子薬剤科長
- 訪問者：（山形大学）清水博教授、船田孝夫助教授  
（山形県健康福祉企画課）佐藤泰幸企画主査、國井丈寿主事

## ◇救急告知病院

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印					
病床数(現在)	194床	医 療 ス タ フ	常勤医師	11人	○ 訪問看護ステーション				
一日平均外来患者数	315人		非常勤医師(常勤換算で)	2.2人	訪問リハビリステーション				
病床利用率(※平成17年度)	87%		標準医師数%	%	地域包括支援センター				
平均在院日数(※)	31日		産科医(再掲:常勤換算で)	人	介護療養型医療施設				
紹介率(※)	2.6%		小児科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人保健施設				
逆紹介率(※)	55.1%		麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設				
救急患者数(平日)(※)	4,235人/年		歯科医師	人	認知症高齢者グループホーム				
救急患者数(休日)(※)			薬剤師	3人	特定施設入居者生活施設				
救急患者数(救急車搬送)(※)	451人/年		看護師	123人	軽費老人ホーム(ケアハウス)				
手術件数(全麻)(※)	109件/年		助産師(兼任を含む)	人	有料老人ホーム				
手術件数(局麻)(※)	92件/年		診療放射線技師	4.0人	小規模多機能型施設				
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年( )		臨床検査技師	6.0人	高齢者向け優良賃貸住宅				
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字		理学療法士:PT	4.0人	看護学校				
△3.16%改定の影響	あり・なし		作業療法士:OT	人	リハビリテーション病院				
△3.16%の影響ありの場合	4%	言語聴覚士:ST	人	診療所					
クリティカルパスの使用	あり・なし	臨床工学技士	人	○ 保育所					
医療ソーシャルワーカー:MSW	2.0人	診療情報管理士	人	その他( - )					
事務職	23.0人	栄養士( 2.0)人、このうち再掲 管理栄養士 ( 2.0)人							
地域連携室(再掲)		看護師		人					
医師(兼任を含む)		1人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW		2人				
事務職(兼任を含む)		1人	その他( )		人				
主な設備	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダーリング	一部導入済・検討中・予定なし					
CT	1台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 1台)、その他( 台)							
MRI	台	内訳: 1.5T以上( 台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 台)							
リニアック	台	透析機器	台	透析実患者数	人				
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A, B, C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要									
	必要人数計	A	B	C		必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	2人	1人	1人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人	人
循環器呼吸器内科医	2人	1人	1人	人	眼科医	1人	人	1人	人
消化器内科医	2人	1人	1人	人	産婦人科医	2人	1人	1人	人
小児科医	2人	人	1人	1人	麻酔科医	1人	人	1人	人
外科医(一般)	1人	1人	人	人	放射線科医	1人	人	人	1人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他( 科医)	人	人	人	人
消化器外科医	1人	1人	人	人	看護師	30人	10人	20人	人
脳神経外科医	2人	人	1人	1人	コメディカル	2人	2人	人	人
整形外科医	2人	1人	1人	人	( PT、薬剤師 )				



<課題>

- 1 救急輪番制のための医師の確保。または、地域としての救急輪番制の見直し。
- 2 在宅医療の促進

<Flag>

- 1 地域包括医療（急性期から在宅まで）
- 2 地域医療

<9つの主な事業>

- ① がん対策  
→消化器は基本的に対応可能。それ以外は山形大、公立置賜総合病院、県立中央病院、福島医大病院に紹介
- ② 脳卒中对策  
→米沢市立病院、公立置賜総合病院での急性期後の回復期リハビリに対応可能
- ③ 急性心筋梗塞  
→対応可能。症例により米沢市立病院、公立置賜総合病院に紹介
- ④ 糖尿病対策  
→内科医・管理栄養士・看護師を中心に糖尿病教室を開催している。  
眼科の手術は山形大に紹介
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策(小児科医1人)  
→平日日中は小児科医  
→休日・夜間の時間外は米沢市立病院。輪番は3日に1回
- ⑥ 周産期医療  
→対応していない。
- ⑦ 救急医療  
→輪番時は外科系・内科系にそれぞれ1人
- ⑧ 災害医療対策  
→米沢市の防災計画にのっとり実施している。

<現状と課題>

- ・当院は民間病院ということで県内でも数少ない病院のひとつ。医療費抑制策で経営が大変になってきている。経営が赤字になってくれば倒産しなければならない。
- ・米沢市内は、3病院で救急輪番制をとっているが、大変な状態にある。特に、医師確保が難しくなっている
- ・これまでも医療法の改正や診療報酬改定のたびに振り回されてきた。
- ・当院はこれまで、一般病床の一部を療養病床へ転換を図ってやってきた。
- ・勤務医不足の問題では、勤務医が都会に流れている。
- ・当院の医師はピーク時に比べると3人減で、現在常勤医11人体制で標準医師数では、2.03人不足しており、総計13.67人。
- ・当直勤務は、院長・理事長を含め、月3~4回行っている。
- ・若者が定着するような街づくりが必要。山形大卒業生が米沢に戻らない。
- ・県の奨学金制度は官民の差別ではないか。
- ・福祉との連携が強く、相談員、ケアマネジャーは多い（川西湖山病院との連携）
- ・急性期型でも療養型でもない亜急性患者を多く受け入れているが、そのような患者の受け皿となる当院のような病院がこれからもますます必要ではないか。

<9つの主たる事業>

○がん

- ・消化器以外は紹介している。外科3人（大学から応援も）いるので消化器は手術可、乳がん、甲状腺がんは完結できる。
- ・放射線治療は、県立中央病院、公立置賜総合病院、福島医大の順に依頼している。
- ・婦人科、眼科系がんは山形大へ送る。

○脳卒中

- ・米沢市立病院、公立置賜総合病院での急性期後の回復期リハはここで行っている。

○急性心筋梗塞

- ・常勤医が2人だったのが、今年から1人に減員となったため、症例によっては、米沢市立病院、公立置賜総合病院に送っている。

○糖尿病

- ・糖尿病外来をここでやっている。眼・腎にも対応できる。1人が認定医である。
- ・眼科の手術が必要な場合は、山形大病院へ送る。（毎週月曜日山形大からきている）
- ・白内障はここで手術可能で網膜はく離などは山形大病院へ送っている。
- ・透析は米沢市立病院、斉藤医院へ送っている。

○小児医療

- ・基本的に、外来にのみ（医師1人）対応している。
- ・患者数は、平日日中40人、時間外2~3人。時間外は米沢市立病院へ行くことが多いと思われる。
- ・輪番は3日に1回で、患者が多いときには15~16人来院する。
- ・輪番以外の日の時間外患者数は1桁台

○周産期医療

- ・行っていない。婦人科は外来診療と健診を行っている程度で、手術が必要な疾患は米沢市立病院、山形大へ紹介している。



○救急医療

- ・ 輪番時は 外科系・内科系それぞれ1人ずつ、看護師2人が当直している。

○人間ドック

- ・ 鷹山ドック（市）を1日10人、企業健診を同10人、計1日20人受け入れている。

○医療連携

- ・ 紹介率・逆紹介率のデータは別途

○電子カルテ

- ・ 未導入。標準化されればいいが「まだ早い」という感じ。
- ・ 画像のやりとりはフィルムで行っている。
- ・ CTはヘリカルCTのみ。MRIはなし

○へき地医療支援機構

- ・ 利用していない

○医療などの状況

- ・ 療養型（60床）では、脳卒中後遺症、胃瘻が30人。在宅復帰困難な患者が10人位。他に、認知症やパーキンソン病の患者が主である。
- ・ 療養病床の形態では、しばらくは医療型でやっていく考えである。病病連携により患者を受け入れていく。
- ・ 平均在院日数：一般病床30日（110床/132床）、療養病床約1年（59.8/60床）。
- ・ 退院後に在宅に帰れる人が少ない。在宅で面倒みられない患者が多い。やはり、老老介護、高齢者単身などの理由である。また、療養度の高い人が多い。気管切開は2人、人工呼吸器の装着はしていない。また、共働き世帯が多い。
- ・ 在宅療養支援診療所については、24時間体制の確保は難しいと思う。
- ・ 訪問看護ステーションでは、看護師5人のほか、PT（4人）が独自に出かけていく（1～2回/週）。
- ・ 往診は、内科系医師が1回/月、場合によっては2回/週の頻度で行っている。
- ・ 訪問看護ステーションによる対象者は現在20人で、ピーク時の半分である。
- ・ 介護支援センターを有し、地域包括支援センター（米沢市）の窓口になっている。専属4人（CW、社会福祉士、ケアマネージャー）を配置している。ここから、在宅支援にも積極的に展開している。
- ・ ヘルパーとして5人を擁している。
- ・ 療養病床からの退院が少ない。特別養護老人ホームの待機待ち患者が多い。
- ・ グループホームや有料老人ホームが市内にできたことから、入所者の取り合いといった様相を呈している。
- ・ 老人保健施設では、6ヶ月たってもなかなか離さないといった状況が見られる。
- ・ デイサービスの利用者が減少した。その理由は、グループホームへの入所（今年3月にできた）によるものが大きい。

○収支および患者動向等

- ・ 4月の収益は、外来は前年とほぼ同じだったが、患者数の減（花粉症患者の減少、長期処方）が見られた。入院は、トータルでは減収（4%程度）。リハは収益減。職員1名減（PT）分が響いている。

- ・当院はそろそろ改築の時期だがなかなか踏み出せない。
- ・DPCは様子見の状況である。
- ・若者が定着するような街づくりが重要だと思う。医学生への「修学資金貸与」は官民差別ではないか？私立病院勤務も条件として拡大してほしい。
- ・当該法人は、出資額限度法人になっている。
- ・医療連携室は医局においている。
- ・医療相談室ではMSW中心の支援（2人）を行っている。
- ・公立置賜総合病院の救急センターが遠いのがやや難点である。
- ・夜間等の患者数は、23.8人/日（輪番）、3.7人/日（非輪番）

#### ○医療従事者数及び不足数

- ・医師 11名、看護職 123名（正看 45、准看 30、看護助手 46、クレーク 1）、薬剤師 3名、放射線技師 4名、臨床検査技師 4名、訪問看護 4名、MSW 1名、CM 5名、ヘルパー 6名、保育士 5名（30人弱の入所児に24時間体制。夜間最低2名常駐）、管理栄養士 2名、調理師 14名（パスはDM、胃漏造設、白内障）
- ・不足している職種は、薬剤師 1名、看護師 10名。医師は、循環器 1名（山形大に派遣依頼中）、呼吸器 1名、消化器（内） 1名（現在は、火・土/週に山形大から）、PT 1名

#### ○病院内施設巡回

- ・外科病棟 66床・・・2床室、6床室
- ・内科病棟 66床・・・療養型：4床室、6床室
- ・ドック 2床
- ・認知症 20人、60人中20人は経管栄養
- ・オゾン発生装置 3か所
- ・リハビリ→1日50数人（整形、運動リハがほとんど）
- ・CT→1日10数人（検査紹介はなし）
- ・ヘルパー6人
- ・相談員 5人
- ・訪問介護事業所、訪問看護ステーション、居宅介護支援診療所ごとに机が分かれている。
- ・保育所は24時間

【公立高島病院】 高島町大字高島386番地

■訪問日：平成18年5月31日（水）14:00～17:45

■面談者：大本 英次郎 院長

■対応者：（山形大学）清水博教授、叶谷由佳教授

（山形県健康福祉企画課）荒木歩課長補佐、武田祐二主事

◇救急告知病院

項 目		項 目 (H18.10.1 現在)		併設施設がある場合、頭に○印				
病床数(現在)	130床	医 療 ス タ フ	常勤医師	9人	訪問看護ステーション			
一日平均外来患者数	320人		非常勤医師(常勤換算で)	4.2人	訪問リハビリステーション			
病床利用率(※平成17年度)	76.8%		標準医師数%	75%	地域包括支援センター			
平均在院日数(※)	20.24日		産科医(再掲:常勤換算で)	1人	介護療養型医療施設			
紹介率(※)	12.94%		小児科医(再掲:常勤換算で)	0.6人	介護老人保健施設			
逆紹介率(※)	20.15%		麻酔科医(再掲:常勤換算で)	人	介護老人福祉施設			
救急患者数(平日)(※)	1,295人/年		歯科医師	0人	認知症高齢者グループホーム			
救急患者数(休日)(※)	1,896人/年		薬剤師	5人	特定施設入居者生活施設			
救急患者数(救急車搬送)(※)	412人/年		看護師	66人	軽費老人ホーム(ケアハウス)			
手術件数(全麻)(※)	48件/年		助産師(兼任を含む)	3人	有料老人ホーム			
手術件数(局麻)(※)	87件/年		診療放射線技師	3.0人	小規模多機能型施設			
分娩数(※)(うち帝王切開)	件/年( )		臨床検査技師	6.0人	高齢者向け優良賃貸住宅			
収支(平成17年度決算)	黒字・赤字		理学療法士:PT	2.0人	看護学校			
△3.16%改定の影響	あり・なし		作業療法士:OT	0人	リハビリテーション病院			
△3.16%の影響ありの場合	2%	言語聴覚士:ST	0人	診療所				
クリティカルパスの使用	あり・なし	臨床工学技士	0人	保育所				
医療ソーシャルワーカー:MSW	0人	診療情報管理士	人	その他( )				
事務職	8.8人	栄養士( 2.0)人、このうち再掲 管理栄養士 ( 2.0)人						
地域連携室(再掲)		看護師		1人				
医師(兼任を含む)	1人	医療ソーシャルワーカー(兼任を含む):MSW		人				
事務職(兼任を含む)	2人	その他( )		人				
主な設備	電子カルテ	導入済・検討中・予定なし	オーダーリング	導入済・検討中・予定なし				
CT	1台	内訳: マルチスライス( 台)、ヘリカルCT( 台)、その他( 台)						
MRI	1台	内訳: 1.5T以上( 台)、1.0T( 台)、0.5T( 台)、0.4以下( 1台)						
リニアック	0台	透析機器	11台	透析実患者数 35人				
重要度別必要医師数及び医療スタッフ数 A,B,C欄に内訳を記載 A:直ちに補充が必要 B:できるだけ早期に必要 C:将来的に必要								
	必要人数計	A	B	C	必要人数計	A	B	C
内科医(一般)	2人	2人	人	人	耳鼻咽喉科医	人	人	人
循環器呼吸器内科医	人	人	人	人	眼科医	1人	1人	人
消化器内科医	人	人	人	人	産婦人科医	1人	1人	人
小児科医	人	人	人	人	麻酔科医	人	人	人
外科医(一般)	2人	1人	1人	人	放射線科医	人	人	人
循環器呼吸器外科医	人	人	人	人	その他( 科医)	人	人	人
消化器外科医	人	人	人	人	看護師	4人	4人	人
脳神経外科医	人	人	人	人	コメディカル	10人	10人	人
整形外科医	1人	1人	人	人	( )			



< 課題 >

- 1 医師不足
- 2 病院機構の再構築
- 3 地域連携システムの構築

< Flag >

- 1 在宅医療の展開
- 1 検診事業の推進
- 2 がん化学療法（特に、血液疾患）

< 9つの主な事業 >

- ① がん対策  
→外科的なものは対応できない。山形大、公立置賜総合病院、米沢市立病院に紹介  
→化学療法（特に血液疾患を主に治療）
- ② 脳卒中对策  
→リハビリ対応可能。急性期は山形大、公立置賜総合病院、米沢市立病院に紹介
- ③ 急性心筋梗塞  
→米沢市立病院に紹介
- ④ 糖尿病対策  
→糖尿病専門医、眼科医、透析も対応可能
- ⑤ 小児救急を含む小児医療対策  
→小児救急はできなくなった。
- ⑥ 周産期医療  
→対応できないときは米沢市立病院等に紹介
- ⑦ 救急医療  
→対応できないため、公立置賜総合病院又は米沢市立病院に紹介
- ⑧ 災害医療対策  
→対応していない。
- ⑨ へき地医療対策  
→対応していない。